

部局のスキームに連動した図書室対応
～北海道大学獣医学研究院図書室の場合～

東 朋子

北海道大学獣医学研究院図書室（以下、当図書室と表記 ※）は、専任のスタッフ1名で切り盛りする、小さな図書室です。

今回、当図書室ならではの話を、とのことで執筆依頼を受けましたので、通常の図書室業務（カウンター対応や所属部局内の蔵書点検など）以外のことについて、一部ですがここにご紹介したいと思います。

※なお、この記事は筆者が他部署へ異動した後に執筆および掲載となったため、記載に当たっては現職の担当者の事前の了承を得た上で行っております。

1. 図書室の概要

当図書室の蔵書は図書資料約8,000点、雑誌約1,250タイトルで、閲覧室の座席は16席。この小さな図書室に、部局所属の学生や教員、そして北大所属の利用者はもちろん、一般の人も利用に訪れます（所定の手続きを経て登録すれば、一般の人も当図書室の図書資料を直接借りられます）。

とはいえ、主な利用者はやはり本学の獣医学部の学生で、試験期ともなると閲覧席が常時満席となります。個室もアクティブラーニングスペースもない図書室なのに、満員御礼の利用があるのは図書室としては有難く、特に、閲覧席で昼夜勉強していた学生が獣医師国家試験に受かったと当図書室に顔を出し、「お世話になりました」と言ってくれた時は、いつも胸がいっぱいになります。当図書室は、そんな職場です。

2. 他大学との共同課程に伴う図書館対応

（中略）

おわりに

以上、簡単ですが、所属部局と連動した当図書室の対応業務をご紹介いたしました。改めて文字にしてみると今さらながら当時のことが思い出されて、たとえばJJVRは（国際誌なので海外からの投稿については特に）英語でのやりとりが基本ということで、ネイティブスピーカーの著者へのメールで自分の拙い英語を送るたびに寿命が縮まり、国際電話で直接対応したときには頭の中が真っ白になっていたなあと、今となっては遠い目で色々懐かしく思い返しながらこの原稿を書いていました。

部局の図書室はその所属部局と密接な関係にあり、当図書室も図書室職員が所蔵部局獣医

学部の教授会に（事前打ち合わせも含めて）毎回参列して、常にその動向を把握した上でここに挙げたような業務に対応しているため、部局内の連携がなければ成り立たないとつくづく思います。「図書館が何をしているかわからない」と言われなかったためのヒントが、当図書室にあるような気がしてならない今日この頃のワタクシなのでした。

（あずま・ともこ / 北海道大学附属図書館）

※この文は「大学の図書館」39巻8号（2020年8月号）に寄稿したものの著者版を抜粋してPDF化したものであり、著作権は著者に帰属するというので上記の文章（著者版の抜粋）をサンプル配布して使用することに関しては発行元も了解済み。（2020.11.24）